

東日本大震災からの復興

極低温科学センター長 青木晴善

東日本大震災の発生から約半年が経過しました。震災発生時には片平地区、および青葉山地区のヘリウム液化機は2台とも運転中であり、双方とも大きな被害をこうむりました。液体ヘリウムは本学の多くの研究・教育の推進に欠くべからざる資源となっており、今年度においては、使用量は全学で25万リットルに達する見込みでありました。液体ヘリウムの安定供給は本センターの第一の使命であり、一時はこの使命をふたたび果たせるようになるのはいつになるのか、全く見通しが立たなくなったこともありました。しかし、液体ヘリウム供給の重要性について、大学内外の関係各位に温かい御理解をいただき、幸いにも復旧のための予算措置をしていただくことができました。センター職員の懸命の努力もあり、比較的被害が軽かった片平地区については、9月からほぼ従来通りの供給体制を回復いたしました。青葉山地区についてはより被害が大きく、現在、応急処置により極めて限られた範囲で一部の供給を何とかおこなっております。しかし、来年中には全面的に復旧し、従来通りの安定供給が再開できる見通しとなりました。この場を借りまして、復旧のためにご尽力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

今回の大震災では、供給側ばかりでなく、多くのユーザーの装置も被害をこうむりました。それらの装置もようやく復旧してきており、本学の研究・教育も震災前の活気をほぼ取り戻したのではないかと感じております。それにつれて、液体ヘリウムの供給に対する御要望も増しておりますが、青葉山地区については今しばらく御要望を全面的に満たすことはできません。ユーザーの皆様にはこれまでの不十分な供給体制について御理解と御協力をいただいたことを感謝するとともに、今しばらくご不便をおかけすることをご了解いただければ幸いです。

また、学外の方々からも、今回の震災については多くの励ましのお言葉と御援助の申し出もいただきました。これらの方々にも改めて厚く御礼を申し上げるとともに、極低温科学センターのみならず、本学の研究・教育が力強く復興していることをお伝えしたいと思います。

極低温科学センター教職員一同、単に復旧にとどまらず、さらに一段の改善、改革を推進し、本学の研究・教育の発展に寄与したいと考えております。今後とも、御協力、御支援をよろしく願います。